

学校運営計画 (4月)		総合評価		
学校運営方針	文武両道を校是としながら、鍛錬によって人格を陶冶し、自律心と思いやりの心を持った工業人の育成を図る。			
昨年度の成果と課題	本年度重点目標 具体的目標			
「チーム福工」「目指せ日本一」を合言葉に、全職員で教育活動に取り組み、進路実績・部活動・資格取得、そして入試状況等その成果は顕著であった。本年度はさらに高い目標設定を行い、生徒の資質能力を最大限に発揮させるべく、全職員の力量向上に努め、新たな福工を創造していく。	校訓の精神に基づいた人づくり	勉学や部活動に積極的に取り組むなど、文武両道に励み、心身共に逞しい生徒を育成する。(質実剛健) 工業教育を通して、協働の精神や規範意識、倫理観を育み、我が国や地域社会に貢献する「志」を持った生徒を育成する。(自律) 各学科の特色を生かした教育活動を通して、イノベーションを起こしていく生徒を育成する。(創造)		
	学力向上と希望進路の実現	学科、学年、教科の連携を図り、学習習慣や学習方法を身につけさせるとともに、授業評価の分析や授業研究をとおして、授業内容、指導方法の工夫・改善に努め、学力向上を実現する。 福工サクセスプランを充実・発展させ、自ら考え、自ら選択・決定し、自ら学ぶ生徒を育成する。もって、第一希望進路を実現する。		
	ものづくり技術技能の向上及び部活動の活性化	ものづくりコンテストをはじめ様々な競技会において、優勝を目指す。 部活動と資格取得・補習等との調整を図り、学校全体の活性化を図る。		
	国際社会を生き抜く人材の育成	国際化・グローバル化が進展する中で、語学力やコミュニケーション能力を高め、国際社会で活躍できる人材を育成する。 日本の伝統文化や国際貢献等の学びをとおして、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、異文化を理解する力や協働の精神を涵養する。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
教科指導	生徒の学力向上に資する授業ができるような環境を整える。	各分掌と調整し、授業時間の確保に努める。 実力テストの結果を分析し、改善策を検討・提案する。 生徒の学力に見合った考査問題の作成を促す。		
	授業以外の場でも生徒が自立的に学習できるような習慣を身につけさせる。	家庭学習の実態を把握し、学習習慣の定着を図る。 朝読書の成果と継続について検討する。 シラバスを通して各教科の学習目標を明確に示す。 成績不振の生徒には、学習を補う機会を設け指導を徹底する。		
生徒指導	積極的生徒指導を基本として、基本的生活習慣やモラル・マナーについて日常的な指導を徹底し、規範意識や防犯意識の向上に努める。	全教職員による言葉使いや挨拶・身だしなみ・携帯電話等の使用のマナー指導の徹底を図る。 「いつでも面接試験を受けることが出来る状態」の身だしなみを目指し、身だしなみ検査等を通して自己点検の重要性を体得させる。 講演会を実施し情報機器のモラルやマナーの啓発を図る。また、各種集会時にもこのことについての醸成を図る。 日常の校門指導、講演会、駐輪指導等を通して校内外の交通マナーや防犯意識の向上に努める。		
	教育相談体制の確立を図るとともに、全教職員の理解に基づいた、きめ細やかな生徒指導に努める。	各学年、いじめ防止委員会や特別支援教育推進委員との連携により、生徒の把握、支援等を行う。 校門指導や校内巡回等の組織的な取り組みにより、安全な学習環境の確保に努める。 生徒理解やカウンセリング等に関する職員に研修を実施し、実践的指導力の向上に努める。		
進路指導	キャリア教育プログラムに基づき、生徒の進路意識を高め、将来、社会人・職業人として自己実現できる基礎能力を養い、学校生活を充実させる。	進路ガイダンス、インターンシップ、応募前職場見学、進路宿泊研修等の充実・発展を図り、学校生活を充実させる。 ホームルーム活動や進路講演会、進路学年集会などを通じて生徒一人一人の進路意識の高揚を図る。 キャリアデザインシートの記入と活用を促し、生活習慣を確立させ日々向上心を持って高校生活を送れるよう支援をする。		
	生徒の情報収集能力と活用能力を高め、一人一人の能力と適性が最大限に生かせるような進路の実現に向けて支援をする。	就職希望者へのきめ細かな進路相談と生徒の特性をいかした就職指導に努め、就職内定率100%と1次での採用内定率90%を目指す。 生徒の進路希望を早期に把握し、企業訪問や職場見学を適切な時期に実施する。 進路に関する資料の充実と誰もが利用しやすい環境をつくる。 公務員希望者の意識を高め、継続的な課外補習や模擬テストなどで実力を高め、合格率向上を図る。		
	進学希望の達成のための学力養成と、受験指導体制を再構築する。 進路情報を広報に生かす。	進学補習要領を見直し、さらに自宅課題等の提示により、家庭学習の定着を図る。 校外模試の受験とデータ分析により進学への動機付けを高揚する。 進路速報やホームページを活用して、中学校関係者や地域社会に情報提供する。		

特別活動・部活動	各種学校行事を活性化させ、生徒全員が積極的に参加し、成功・感動体験を共有し、所属感や母校愛を大きく持たせる。	各種生徒会行事について、生徒会長、生徒会執行部、応援リーダー、獅子の会を中心とした、生徒主体で運営する。 各種委員会活動を計画的に支援し、活発で自主的な活動を促す。 自ら発信することのできるリーダーを育成し、あらゆる場面での活躍を増やしていく。 質の高い挨拶を推奨し、活気ある学校生活と、高いコミュニケーション能力の獲得を目指す。			
	新たな人間関係を形成し、多くを学び合える場として、部活動・同好会への参加を増やし、活動の活性化を図る。	部活動・同好会加入率85%を達成するため体験期間を設け、ミスマッチ入部を減らし、退部、休部を防ぐ手立てを講じる。 新入生獲得の場だけでなく、在校生のモチベーション向上の為にもオリエンテーション等を充実させる。 各々が戦績を称え認め合えるよう、また校外に向けたアピールの為に広報活動を強化する。			
健康・安全指導	健康教育の推進に努め、環境の整備と望ましい生活環境の啓蒙を図る	健康への意識を向上させるため健康診断等の結果を随時知らせ、個別の生徒への保健指導を充実させる。 保健室利用状況が常時確認できるようデータを入力することで、生徒の指導に活用できる環境を整える。 校内外の清掃を徹底し、日本一美しい学校を目指し、地域に愛される学校を目指す。 校内の飲料水・施設設備の安全チェックを行い、水質検査を2ヵ月毎に実施する。 特別支援教育の体制を整え、学校全体で取り組んでいく。			
		学校ホームページの内容およびデザインを見直し、学校の魅力を積極的に発信する。 体験入学や学校案内パンフレットの内容を見直し、本校の教育活動を紹介する。 PTA活動を通じて、保護者と学校との意思疎通を深める。			
家庭と地域との連携・広報活動	地域と保護者とのつながりを密にし、開かれた学校づくりのために、一層効果的な広報活動を展開する。	授業の工夫・改善を図るため、研究授業や公開授業の質を向上させる。 基本研修や校外研修の内容が全職員で共有できる研修を計画する。 研修の内容を整理し、研修の効率化・スリム化を推し進め、研修の認知度を上げる。 学務部と連携を図り、「わかりやすく、興味が持てる授業」に関わる研修の運営を行う。			
研究・研修	生徒にとって「わかりやすく興味が持てる授業」を実現し、社会や地域のニーズに応えられる教育の在り方を追求する。	校務パソコン、S-システム、校内ホームページの活用促進や利便性を高めるための改善を行う。 校務パソコンの更新とネットワーク環境の整備と管理を行うとともにセキュリティ管理を適切に行う。 各教科におけるパソコン室の利用促進を図る。各学科におけるパソコン実習室の機器を更新する。			
教育情報	教育活動が充実するよう、教育の情報化を推進する。	図書館報「書窓」や「BookNavi」「新刊案内」等の発行を通じ、図書館の広報活動に努める。 朝読書・ブックマイルージキャンペーン、読書週間等の実施により、読書習慣の定着を図る。 朝読書の本の貸し出し、図書館ビデオ作成等を通じ、図書委員会活動の活性化を図る。 視聴覚機器の整備・整理を進め、視聴覚教室の有効利用と利用時のマナーを徹底させる。			
学校図書館	図書館整備の推進と広報活動の充実により、図書館利用の増進とマナーの向上を図る。図書委員会の活性化により、生徒主体の読書の習慣化を図る。視聴覚機器の円滑な運用と整理整備を増進する。	人権・同和教育推進委員会を定期的に開催し、各学年、各分掌からの情報を共有し、状況に応じて関係分掌や機関との連携をとりながら、生徒指導に活かす。 人権・同和教育特設授業については、人権・同和教育推進委員会において事前に指導内容を検討して、学年でも事前学習を行い授業に臨む。その後、評価や反省点を委員会で総括する。 職員研修会を通して、教職員の人権・同和教育に関する知識や実践的指導力の向上を目指す。			
人権・同和教育	本校の本年度の人権教育全体計画、年間計画に基づき、生徒一人ひとりに人権尊重の意識や知識、態度を身につけさせるとともに、学力と進路の保障を全職員で推進する。	時間や規則を守り、礼儀正しく、主体的に活動する生徒の育成を目指す。 互いを尊重し、ともに学びあい、ともに伸びゆく集団をつくる。 保護者や各分掌との連絡を密にし、情報を共有して生徒の適切な指導にいかす。			
1 学年	福工生の誇りを持ち、いきいきと生活することで、自律と協働の精神を涵養する。ものづくりにより目標を具体化し、その達成のための学習力を培う。	自ら立てた目標の実現の為に、毎日の授業に主体的に取り組む姿勢を徹底させる。 インターンシップ等を有効に利用して、進路に関する関心を高め知識を蓄積させる。 充実したHR活動や積極的な行事への参加を促し、自信や自己肯定感を涵養させる。			
2 学年	全ての学習活動や特別活動において、常に自らの進路実現に関連付けた思考や言動を心掛けることができる生徒を育成する。	社会人としての自立を促し、下級生の模範となるような誠実さと謙虚さを持つ生徒の育成を行なう。 進路宿泊研修を通して進路に対する意識を高め、希望進路を実現できるようにする。 課題研究や体育祭等の行事を通して知性の涵養と豊かな情操の育成に努める。			
3 学年	希望進路の100%実現と自ら進んで行動する心身ともにすぐれた人間の形成を目指す。				

染織デザイン	社会人として通用する基本的な生活習慣の確立、基礎的な学力の向上及びキャリア教育の推進を図ると共に授業や資格取得を通して学習方法及び記憶学習を取得させる	ルールやマナーの大切さを理解させ、機敏に行動できるよう指導する。 個別指導を中心に、進路意識の高潮を図り、早期に進路内定率100%の実現を目指す。 授業を工夫し、興味関心を持たせ、2・3年生は、デザイン公募への意欲をもたせ、資格試験合格率など前年度比5%増を目指し、色彩検定2・3級 100%の合格率を目指す。			
建築科	建築に関する興味・関心を喚起し、福工・建築科の生徒としての自覚と誇りを持たせ、何事にも積極的、意欲的に挑戦する生徒の育成を図る。	時間の厳守や身だしなみ等の指導を通して基本的な生活習慣の確立を図る。 建築への興味・関心を持たせ、学習意欲の向上を図り、希望進路を実現させる。 実習室や工作機械を整備し、授業を充実させると共に、安全管理を徹底する。 ものづくり、建築設計競技において、最優秀賞を獲得する。			
機械工学科	ものづくりや工業技術に興味・関心を持たせ、進路に対する意識向上を図るとともに、社会人として有為な人材となる生徒を育成する。	挨拶、時間厳守、言葉づかい、整理整頓等、社会人として必要な基礎・基本を指導する。 教員の専門性を高めるとともに、授業担当者間で十分な連携を図り、学力を向上させる。 資格取得の目的を明確にし、自己のスキルアップのための資格取得に積極的に取り組ませる。 インターンシップ等を利用して進路に対する意識向上を図り、生徒自らが進路を決定していく態度を育成する。			
工業進学コース	理工系大学に進学する上で必要な基礎学力の向上と学習習慣の定着を図る。また、ものづくりに必要な技術・技能を習得させる。	定期的に進路を考えさせる機会を設け、学習意欲の向上と明確な進路目標決定に努める。 特徴である少人数制の授業を生かし、きめ細かな指導を行い希望進路の実現を図る。 ものづくりに関する技術や資格の重要性を認識させ、ジュニアマイスター取得を奨励する。			
情報工学科	基本的な生活習慣を身につけ、資格取得やものづくりに情熱をもって取り組む生徒を育成する。	自ら身だしなみを整え、人の話を素直に聞くことができるようきめ細かな指導をする。 情報技術の進展に対応した実習教材を開発し、ものづくりを通して学習意欲を高める指導をする。 CBT方式に対応した情報処理技術者試験の指導内容や指導方法を確立し、年間合格者20名以上を目指す。 科目間の知識の繋がりを理解させ応用する力を発揮できるように授業内容や指導方法を工夫・改善する。			
環境化学科	地球環境の保全に配慮したものがづくりができる工業人の育成に努める。	化学の基礎基本と専門技術を身に付けた化学技術者を育成する。 化学に関する資格に積極的にチャレンジさせ、合格率をあげる。 実習において安全教育を徹底し、規律ある態度で作業ができるようにする。 学科に関する求人企業の開拓に努め、専門企業への就職を勧める。			
電気工学科	生徒が電気技術者として自立心と誇りを持ち、積極的に自己実現に取り組み、障害に亘り向上心を維持する工業技術教育を実践する。	生徒の意識を高め、第一種および第二種電気工事士の合格率が9割以上になることを目指す。 電気技術者として必要な基礎学力の定着を図り、標準テスト平均70点以上を達成する。 ものづくりや調査研究への意欲を喚起し、生徒研究発表やコンテストに参加させ、創造力や表現力を身につけさせて、将来に亘った自立心を養成する。			
都市工学科	社会性やコミュニケーション能力を磨き、都市工学科の生徒として自信と誇りを持ち、主体的に活動する生徒を育成する。	時間を厳守し、身だしなみを整え、学ぶ環境を整備するなど、基本的な生活習慣を確立させる。 聞く力・考える力を育成し、家庭学習の習慣を醸成し、学習意欲と基礎学力の向上を図る。 あらゆる機会を利用して進路意識を高揚させ、進路希望早期決定と100%実現を目指す ものづくり大会および資格取得において好成績を収めることが出来るよう指導の徹底を図る。			
電子工学科	基本的な生活習慣を身につけさせ、電子技術者としての意識や知識・技術を高めると共に、自律心と思いやりの心をもった生徒を育成する。	創造性を育む知財教育を行い、パテントコンテストに1年生50%以上の応募を目指す。 技術者としてのものづくり技術力向上のため、全員が1つ以上の回路を製作する。 基礎学力の定着・向上、学ぶ意欲の向上を図り、特殊無線技士の全員合格、工事担任者30名以上の合格を目指すと共に標準テスト平均点75点以上を目指す。			